

9. 偏差値

(1) 規準値と偏差値

いま、あるデータ x_1, x_2, \dots, x_n の平均値を \bar{x} 、標準偏差を σ として、このデータを規準化しますと、これらの基準値の平均値は 0 で、標準偏差は 1 になります。

このことをまず明らかにしておきましょう。話を簡単にするために、データが x_1, x_2, x_3 の 3 つの場合について説明します。

このデータの平均値を \bar{x} 、標準偏差を σ としますと、

$$\bar{x} = \frac{x_1 + x_2 + x_3}{3} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

$$\sigma = \sqrt{\frac{(x_1 - \bar{x})^2 + (x_2 - \bar{x})^2 + (x_3 - \bar{x})^2}{3}} \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

でした。さて、3 つの数値 x_1, x_2, x_3 の規準値は、

$$\frac{x_1 - \bar{x}}{\sigma}, \quad \frac{x_2 - \bar{x}}{\sigma}, \quad \frac{x_3 - \bar{x}}{\sigma}$$

となります。この規準値の平均値を \bar{X} 、標準偏差を σ_x としますと、

$$\begin{aligned} \bar{X} &= \frac{1}{3} \left\{ \frac{(x_1 - \bar{x})}{\sigma} + \frac{(x_2 - \bar{x})}{\sigma} + \frac{(x_3 - \bar{x})}{\sigma} \right\} \\ &= \frac{1}{3} \left\{ \frac{x_1 + x_2 + x_3 - 3\bar{x}}{\sigma} \right\} \end{aligned}$$

①より、 $3\bar{x} = x_1 + x_2 + x_3$ ですから、上式の右辺の分子は 0 になります。

したがって、規準値の平均値： $\bar{X} = 0$ です。

また、 σ_x については

$$\begin{aligned} \sigma_x^2 &= \frac{1}{3} \left\{ \left(\frac{x_1 - \bar{x}}{\sigma} - \bar{X} \right)^2 + \left(\frac{x_2 - \bar{x}}{\sigma} - \bar{X} \right)^2 + \left(\frac{x_3 - \bar{x}}{\sigma} - \bar{X} \right)^2 \right\} \\ &= \frac{1}{3} \left\{ \left(\frac{x_1 - \bar{x}}{\sigma} \right)^2 + \left(\frac{x_2 - \bar{x}}{\sigma} \right)^2 + \left(\frac{x_3 - \bar{x}}{\sigma} \right)^2 \right\} (\because \bar{X} = 0) \\ &= \frac{1}{3} \left\{ \frac{(x_1 - \bar{x})^2 + (x_2 - \bar{x})^2 + (x_3 - \bar{x})^2}{\sigma^2} \right\} \\ &= \frac{1}{\sigma^2} \times \left\{ \frac{(x_1 - \bar{x})^2 + (x_2 - \bar{x})^2 + (x_3 - \bar{x})^2}{3} \right\} (\text{この } \{ \} \text{ は } \textcircled{2} \text{ ですから}) \\ &= \frac{1}{\sigma^2} \times \sigma^2 = 1 \end{aligned}$$